

令和4年10月8日(土)

越谷市の

じばさんぎょう

地場産業

NPO法人越谷市郷土研究会

越谷市内に存在した江戸時代の「1宿1町49ヶ村」



作成：加藤 幸一氏

過去の地域産業1 / 13

- ① 米（こめ）
 - ② 大麦（おおむぎ）
 - ③ 大豆（だいず）
- ・ 越谷市内の全域

過去の地域産業2 / 13

④ 蓮根 (れんこん)

- ・ 荻島・出羽・大相模地区

⑤ 里芋 (さといも)

- ・ 大相模地区

⑥ 甘薯 (さつまいも)

- ・ 荻島地区 (旧砂原・小曾川村)

過去の地域産業3 / 13

⑦ 牛蒡（ごぼう）

- ・ 荻島地区（旧砂原村）

⑧ 大根（だいこん）

⑨ 葱（ねぎ）

過去の地域産業4／13

⑩ 桃の実（もものみ）

- ・ 新方地区（旧向畑・大杉村）
- ・ 大袋地区（旧袋山村）
- ・ 増林地区（旧小林村）

⑪ 梅の実（うめのみ）

- ・ 大袋地区（旧袋山村）

過去の地域産業5 / 13

⑫ 菜種（なたね）

- 桜井地区（旧平方村）
- 新方地区（旧船渡村）
- 大袋地区（旧恩間・大道村）
- 増林地区（旧増林・増森村）

過去の地域産業6／13

⑬ 葉藍（はあい）

- ・ 出羽地区（旧神明下・四町野村）

過去の地域産業7 / 13

⑭ 木綿（もめん）

- ・ 新方地区（旧川崎・向畑村）
- ・ 大相模地区（旧見田方・四条村）

※ 白木綿（しろもめん）

- ・ 新方地区（旧大杉・川崎・大吉村）
- ・ 出羽地区（旧四町野村）

※ 晒（さらし）業

- ・ 増林地区（旧増森村）
- ・ 大沢地区（旧大沢町）

過去の地域産業8 / 13

⑮ 醤油（しょうゆ）

- ・ 大袋地区（旧袋山村H家）

過去の地域産業9／13

①⑥ 蕨（むしろ）

- ・ 新方地区（旧向畑・大吉村）
- ・ 荻島地区（旧荻島・後谷・西新井村）
- ・ 出羽地区（旧神明下・四町野・谷中村）
- ・ 大相模地区（旧西方村）
- ・ 蒲生地区（旧瓦曾根村）
- ・ 川柳地区（旧麦塚村）

過去の地域産業10／13

①⑦ 草鞋（わらじ）

- ・ 川柳地区（旧麦塚村）

過去の地域産業11／13

⑱ 木箱（きばこ）

- ・ 新方地区（旧向畑村）

72,600箇 生産

- ・ 新方地区（旧川崎村）

50,000箇 生産

出典：『武蔵国郡村誌』

過去の地域産業12／13

①9 玩具 (がんぐ)

②0 達磨 (だるま)

②1 雛人形

(ひなにんぎょう)

過去の地域産業13 / 13

②② 造り花（つくりばな）

- 大相模地区（旧西方村）
- 越ヶ谷地区（旧越ヶ谷町）

過去の地域産業 その他1

① 煉瓦 (れんが)

過去の地域産業 その他1

出典：以下のURLより引用

<http://fukadasoft2.sakura.ne.jp/renga/comments.html#C7>

埼玉県の煉瓦樋門 ～注釈～ 改訂34版：2010/04/12

(注7) 埼玉県の煉瓦工場

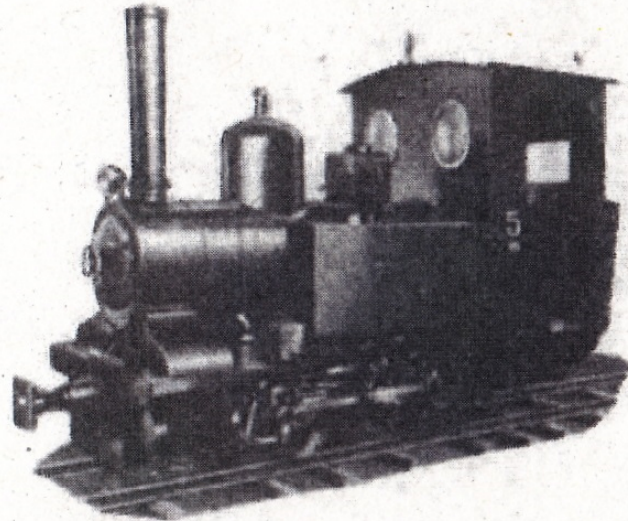
工場名	創設年	所在地	職工	出典・補足
①上田煉瓦製造工場	明治32年	南埼玉郡 <u>増林村</u>	13	注7 L
②齋藤煉瓦工場	明治35年	南埼玉郡 <u>増林村</u>	10	注7 L
③中澤煉瓦工場	? 明治41年	南埼玉郡 <u>増林村</u> 増林	11	注7 L
④大成煉瓦株式会社	大正 3年	南埼玉郡 <u>増林村</u>	20	注7 L
⑤星合煉瓦工場	大正 3年	南埼玉郡 <u>増林村</u>	54	注7 L
⑥ <u>東武煉瓦株式会社</u>	?	南埼玉郡 <u>増林村</u>	104	注7 K、注7 M、注7 N
⑦猪原窯業株式会社	?	南埼玉郡 <u>増林村</u> 中島	?	注7 N

過去の地域産業 その他2

② 小型蒸気機関車

- 熊澤機械株式会社

蒸汽機關車 Small Steam Locomotive



輕蒸汽機關車ハ鐵道，道路，河川改修，水力工事，港灣，埋立工事其ノ他アラユル土木建設工事並ビニ改修工事ソノ他工場構内ノ停車場内ノ操車或ハ林業，鑛山等總テノ運搬作業ニ使用シ能率的ニ

且ツ輕費勞力ヲ節約スルニ最モ重要ナルモノナリ。
機關車材料ハ凡テ日本標準規格ニ準シ特ニ精選セル優良材ヲ使用シ工事作業ノ安全性ヲ完全ニ保チ得ル機關車ノ重心點ニモ考慮ヲ拂ヒ同斷ナキ使用ニ對シテモ絕對耐久的ニシテ永ク優秀ナル能率ヲ保チ得ル。

摘要	種別	K 4	K 6
運轉狀態ニ於ケル重量 (噸)		4,000	6,000
最大牽引力 (噸)		890	1,320
常用速度 (軒/每時)		8	8
最大速度 (軒/每時)		20	20
軌間 (耗)		610	610—762
全長 (耗)		4,000	4,750
全幅 (耗)		1,416	2,000
全高 (耗)		2,330	2,800
氣筒直徑 (耗)		150	160
氣筒行程 (耗)		210	250
罐蒸汽壓力 (噸/每平方糎)		9.5	11
火格子面積 (平方米)		0.25	3.0
全傳熱面積 (平方米)		8.0	13.5
動輪直徑 (耗)		465	610
水槽容量 (立米)		0.3	0.6
石炭槽容量 (立米)		0.2	0.35
全軸互 (耗)		950	1,100
附屬品		一式	一式

製造元 Manufacturer

熊澤機械株式會社

KUMAZAWA MACHINERIES CO., LTD.

埼玉縣南埼玉郡越ヶ谷町一六三二番地

1132, Koshigayamachi, Minamisaitama-gun, Saitamaken.

販賣元 Solo Agent

東京土木機械商會

TOKYO CIVIL ENGINEERING CO.

東京都中央區新富町三丁目一番地 (電話築地 一九六〇~一)

1,3-chome, Shintomicho, Chuo-ku, Tokyo.

現在の地域産業1／14

① ネギ

- 越谷葱（ねぎ）
 - 千寿葱（せんじゅねぎ）
 - 増林・新方地区で栽培
 - 越谷市の出荷量：県内4位
- 出典：平成18年度統計

現在の地域産業2 / 14

② 慈姑（くわい）

- 荻島・出羽地区で栽培
- 発泡酒（はっぽうしゅ）
- 和菓子

現在の地域産業3 / 14

③ 太郎兵衛糯 (たろべえもち)

- 会田 太郎兵衛
- 「こしがやブランド」

認定品

現在の地域産業4/14

④ 小松菜（こまつな）

- 埼玉県の生産量：全国1位
- 越谷市の生産量：県内36位

出典：平成22年度統計

現在の地域産業5 / 14

⑤ 山東菜

(さんとうさい)

- 「山東菜漬け」
- 「こしがやブランド」

認定品

現在の地域産業6／14

⑥ チューリップ

- ・ フリージア・ユリなどの球根切り花
- ・ 小菊・バラなど

現在の地域産業7 / 14

⑦ せんべい

- 越谷手焼きせんべい

- 「名物 鬼焼」

仮名垣 魯文（安政4（1857））

『日光道中膝栗毛』

（名古屋市蓬左文庫所蔵）

現在の地域産業8／14

⑧ だるま

- ・ 越谷張子（はりこ）だるま
- ・ 越谷五色だるま
- ※だるまアート
- ・ 埼玉県の伝統的手工芸品
に指定

現在の地域産業9 / 14

⑨ ひな人形

- 越谷ひな人形
- 「越谷段雛」
- 「越谷練り雛」
- 「越谷一文雛」
- 埼玉県の伝統的手工芸品
に指定

現在の地域産業10／14

⑩ 甲冑（かっちゅう）

- 越谷甲冑
- 埼玉県の伝統的手工芸品
に指定

現在の地域産業11／14

⑪ 桐箱

- 越谷桐箱
- 式亭三馬

(しきていさんば)

「江戸の水」

現在の地域産業12／14

⑫ 桐たんす

- ・ 越谷桐たんす
- ・ 「春日部桐箆笥（たんす）」

国の伝統的工芸品の指定

現在の地域産業13／14

⑬ 籠染灯笼

(かごそめとうろう)

- ・ 浴衣 (ゆかた) の籠染め

現在の地域産業14／14

⑭ 都うちわ

(みやこうちわ)

千鳥うちわ

(ちどりうちわ)

式亭三馬（しきていさんば）

安永五年（一七七六）

文政五年（一八二二）閏一月六日

は、

江戸時代後期の地本（じほん）作家で
薬屋、浮世絵師。

滑稽本『浮世風呂』『浮世床』

などで知られる。

名は菊地泰輔、字は久徳。

通称は西宮太助。

戯号は四季山人・本町庵・遊戯堂・

洒落斎（しゃらくさい）など。

名が久徳で字が泰輔とする

文献もある（注1）。

※（注1）棚橋正博（二〇〇七）

『式亭三馬』新装版

ぺりかん社二頁

※ 出典 フリー百科事典

『Wikipedia』

式亭三馬（しきていさんば）

式亭 三馬の「江戸の水」 1 / 2

「文化年間（一八〇四〜一七）

江戸で大変よく売れた「江戸の水」という化粧水があつた。

この化粧水は箱入で発売元は、江戸本町二丁目の式亭三馬である。

三馬は当時の流行作家であつたが、作家稼業のほか薬屋を開業していた。

文化八年三月の日記に

「江戸の水箱入りの箱は、

百文につき一四かえ、

越谷大泊村 箱屋 長八、

江戸浅草福井町 箱屋 利助

右二人にたのみて

数五千余も製りたりしに、

新よしはら山口 巴屋 清次

手代（てだい） 金蔵のしゅうと、

越谷 在の箱屋なりとて

たのみきたるゆえ、

対談決着 百文につき数一六かえ、

一つにつき価六文なり」

とある。

式亭 三馬の「江戸の水」 2 / 2

すなわち三馬は

化粧水「江戸の水」の木箱を、

大泊村 箱屋 長八と、

江戸浅草福井町 箱屋 利助

の二人に、

銭百文につき一四箇の勘定で

五千箇余りを造らせたが、

越ヶ谷在の箱屋が三馬を訪れ、

箱一個の値段が銭六文、

つまり銭百文につき一六箇勘定

だというので、

これに箱造りを頼んだという。

この話によっても、

当時越谷地域で小箱がさかんに製造
されていたことが知れる。

『武蔵国郡村誌』によると、

当時小箱は、

川崎村が五万箇、

向畑村が七万二六〇〇箇

を生産したとある。

※出典 竹内 誠・小沢 正弘（一九七五）

『越谷市史 第一巻 通史上』

越谷市、七二七〜七二八頁